



新しい時代を生きる子どもたちを育てる 施設一体型小中一貫校 「多度学園」開校！

子どもたちの成長を支え、 9学年がつながる空間設計

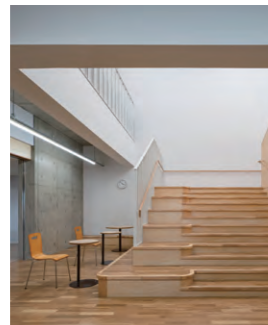
校舎は、子どもたちの成長段階に合わせて各フロアが構成されているのが特徴。義務教育9年間の連続的かつ系統的な学びを実現します。各フロアの教室間には交流スペースや図書スペースが設けられており、先生が常駐できる教師コーナーも設置。異学年交流や、気軽に先生に質問や相談ができる、対話を重視した学習環境が整いました。子どもたちの9年間の連続的かつ系統的な学びをサポートします。



2階昇降口の向かいには子どもたち全員の共有スペースである図書室を設置。



各教室の中央に設置された共有スペース。



階段にベンチを施し、会話を楽しめるスペースを確保。



発表の場やプロジェクター投影などで活用できる階段教室。

吹き抜けの手すりには桑名市の竹を有効活用。



廊下の大きな窓からは、多度の自然や街並みが一望できます。



音楽室の壁は、市の無形文化財「連鶴」をイメージしたデザイン。



スロープの壁には、多度地区の学校と日本の歴史が描かれています。

郷土愛を育む、多度の地形と 桑名の文化を生かしたデザイン

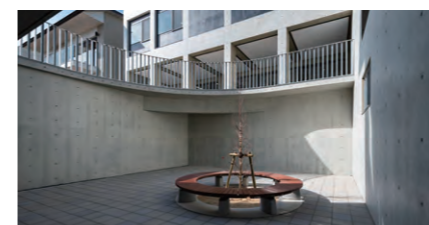
校舎の至るところに地域に関連するデザインが施されているのも、多度学園の魅力。音楽室の壁面には桑名市の無形文化財「連鶴」をモチーフにしたデザインを取り入れ、廊下のスロープの壁には、多度地区の学校や日本の歴史が描かれるなど、子どもたちに歴史と文化を伝えていきます。また、市内の放置竹林を有効活用した手すりやベンチ、三重県産木材を使用した学校用家具など、SDGsの視点も導入。日常の中で「桑名らしさ」を学べる仕掛けが満載です。

**地域とつながる新校舎で育む
子どもたちの学びと育ち**
市では2007年から小中連携教育を推進し、少子化への対策と学びの系統性・連続性を備えた教育環境づくりに努めています。その一環として、4月に桑名市初となる施設一体型小中一貫校「多度学園」が開校しました。4つの小学校と1つの中学校の5校を再編した義務教育学校です。義務教育学校とは、2016年に学校教育法改正によって設定された、小学1年から中学3年までの学習指導と生活指導を、1人の校長と1つの教職員組織が担う新しい教育制度。9学年を見

通した小中一貫教育により、心身の変化に応じたきめ細やかな指導や、異学年交流による精神的成長が期待されています。
校舎は、民間企業の創意工夫を設計から施工まで一括して取り入れる「デザインビルド方式」を市内で初めて採用。多度エリアの眺望や地形を生かしつつ、地域とのつながりを大切にして整備されました。約800人の生徒が集う新しい学舎は、地域コミュニティの核となり、次代を担う子どもたちの未来を育む拠点として始動します。



校舎は高低差を生かし、子どもたちの成長に沿ったフロア形成になっています。



1階にあるシンボルツリー。今後子どもたちとともに育っていきます。



多度学園 尾関 一夫 校長

スクールバスが5ルートで運行開始！

徒歩や自転車に加え、スクールバスの運行がスタート。多度地区を網羅する5つの専用ルートを設定し、地域に根ざした運行体制を整えています。車両には置き去り防止装置を完備し、安全な環境で登校できます。



AI校歌作成動画はこちら



多度学園校歌（1番）

多度の流れは 清らかに
澄んだ心に 夢のせて
ああ我らは 誓う 幸せ創る架け橋に
優しい心を 育みて
かがやく笑顔 多度学園

**全国初！
AIと共創した
多度学園校歌**
全国初の「AI共創校歌」が多度学園で誕生。子どもたちや地域住民から募ったキーワードをAIが歌詞化し、小中学生らが生成メロディから40候補を選出・編集を経て完成。人間とAIが協働して作り上げた新校歌は、地域の絆を未来へと歌い上げます。